

# チャルチュアパ遺跡における素面石碑

伊 藤 伸 幸

## 1. はじめに

エルサルバドル西部においては、チャルチュアパ遺跡の石彫が最も古く先古典期中期（コロス期：紀元前900～650年）の太鼓腹の小石彫がある（Sharer, ed., 1978）。また、チャルチュアパ遺跡でみられる石碑は先古典期後期とされる。エルサルバドル西部における石碑の始まりはいつなのであろうか？

エルサルバドル西部の先古典期中期～後期のサンタ・レティシア遺跡には石碑がなく、太鼓腹の石彫と様式化されたジャガー頭部石彫がみられる（Demarest, 1986）。一方、タバルシュクツ遺跡では、先古典期中期の可能性がある石柱が石碑として使われていた。アタコ、クアンクア、ナウリング遺跡では時期は不明であるが玄武岩製石柱が出土している（図1、Paredes, 2012）。

一方、メソアメリカにおいてマヤ地方で古典期に盛行する石碑と祭壇の組み合わせは石碑-

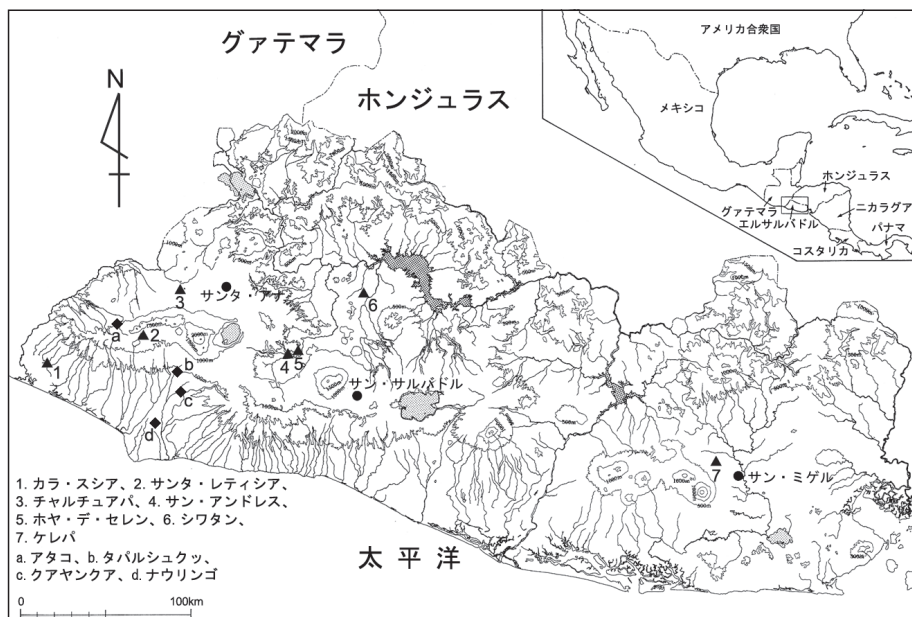


図1 エルサルバドルの主要遺跡と素面石碑出土遺跡

祭壇複合と称される。この複合はグアテマラ高地のナランホ遺跡が最も古く、先古典期中期とされる (Arroyo, 2010; Sharer & Traxler, 2016)。石彫を始めてつくったオルメカ文化が栄えたメキシコ湾岸地方では、石碑と祭壇の組合せは先古典期後期トレス・サポテス遺跡からである (Stirling, 1939, 1940)。また、メキシコ湾岸では先古典期中期頃から素面石碑<sup>1)</sup>を含む素面記念物を使っていた。一方、メソアメリカ南東部太平洋側地方では、多くの素面祭壇や素面石碑が出土している (Bove, 2011)。当該地方には、名古屋大学が2012年から継続して調査を実施しているチャルチュアパ遺跡がある。エル・トラピチェ地区でも、素面祭壇や素面石碑が出土している (図2、3、Ito, 2021)。

以下では、チャルチュアパ遺跡各地区で出土している素面石碑を考察する。最初に、素面祭壇の出土状況を検討する。次に、エルサルバドルでも素面石碑が出土している西部の素面石碑出土状況や器形を検討し、チャルチュアパ遺跡出土素面石碑と比較する。また、当該地域が属するメソアメリカ南東部太平洋側地方で多くの素面石碑が出土している4遺跡の出土状況とその器形について比較する。最後に、チャルチュアパ遺跡出土素面石碑から読み取れる歴史的な意味を考察する。

## 2. チャルチュアパ遺跡出土素面石碑

チャルチュアパ遺跡では、エル・トラピチェ、カサ・ブランカ地区で素面石碑が出土している。エル・トラピチェ地区では2基、カサ・ブランカ地区では5基が出土している (図2)。一方、タスマル地区 B1-1 建造物の北側に素面石碑1基がある (写真2b)。ボックスの発掘によって出土した可能性がある。しかし、この石彫についてはボックスもシャラーも報告していないため、詳細については確認できない。このため、本稿では扱わないこととする<sup>2)</sup>。以下では、各地区出土の素面石碑について出土状況をみる。

### (1) エル・トラピチェ地区

#### a. 2号記念物

ペンシルバニア大学の調査で、E3-1 建造物南側の TR10 トレンチでイロパング火山灰 (TBJ) 層下から2号記念物が出土している (図3、Sharer, 1978: fig. 8; 伊藤 2022)。法量は、24×75×100cmである。殆ど自然面を残している平石である。微かに槌打し整形した跡があるが、磨かれてはいない。端部はまるくなっている。一つの端は壊れている。報告者は先古典期後期の素面石碑としている (Sharer, ed., 1978)。しかし、2号記念物は短辺と長辺がほぼ同じであることから石碑よりも祭壇の可能性が高い。また、同じE3-1建造物の基線上で2号記念物の近くで出土した4号記念物は、短辺と長辺の差が大きく石碑となる可能性が高い。筆者は石碑 (4号記念物) と祭壇 (2号記念物) が対応する関係にあり、石碑-祭壇複合である可能性

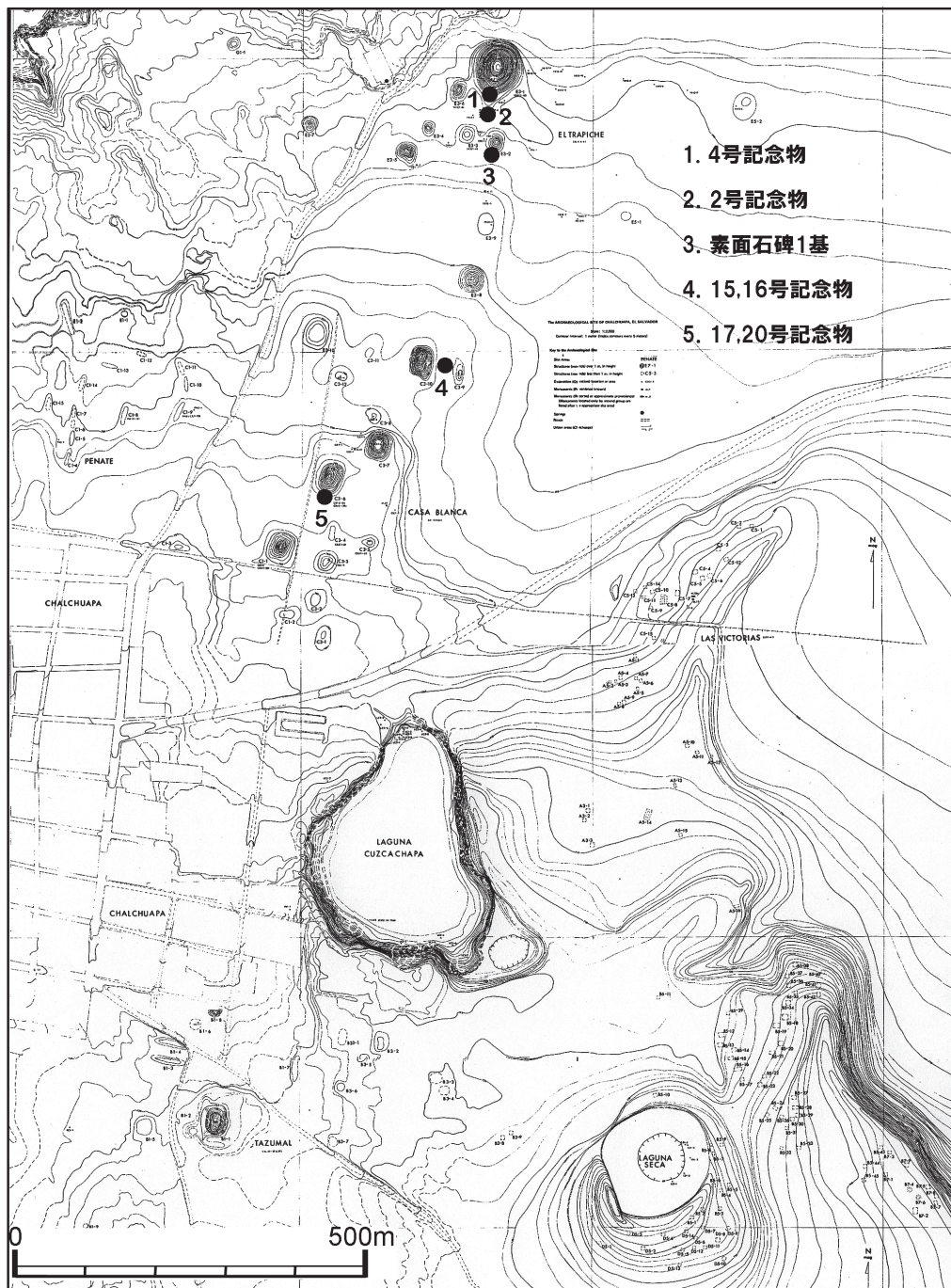


図2 チャルチュアパ遺跡の素面石碑分布 (Sharer, 1978を改変)

を指摘した（伊藤 2022）。

#### b. 4号記念物

ペンシルバニア大学の調査によると、E3-1建造物の階段部分の表土上にあった（図3、写真1 a）。法量は180×69×48cmである。方形で上面が整形されたか浸食のために滑らかになっている。時期不明であるが、先古典期後期の可能性を考えている（Sharer, ed., 1978）。

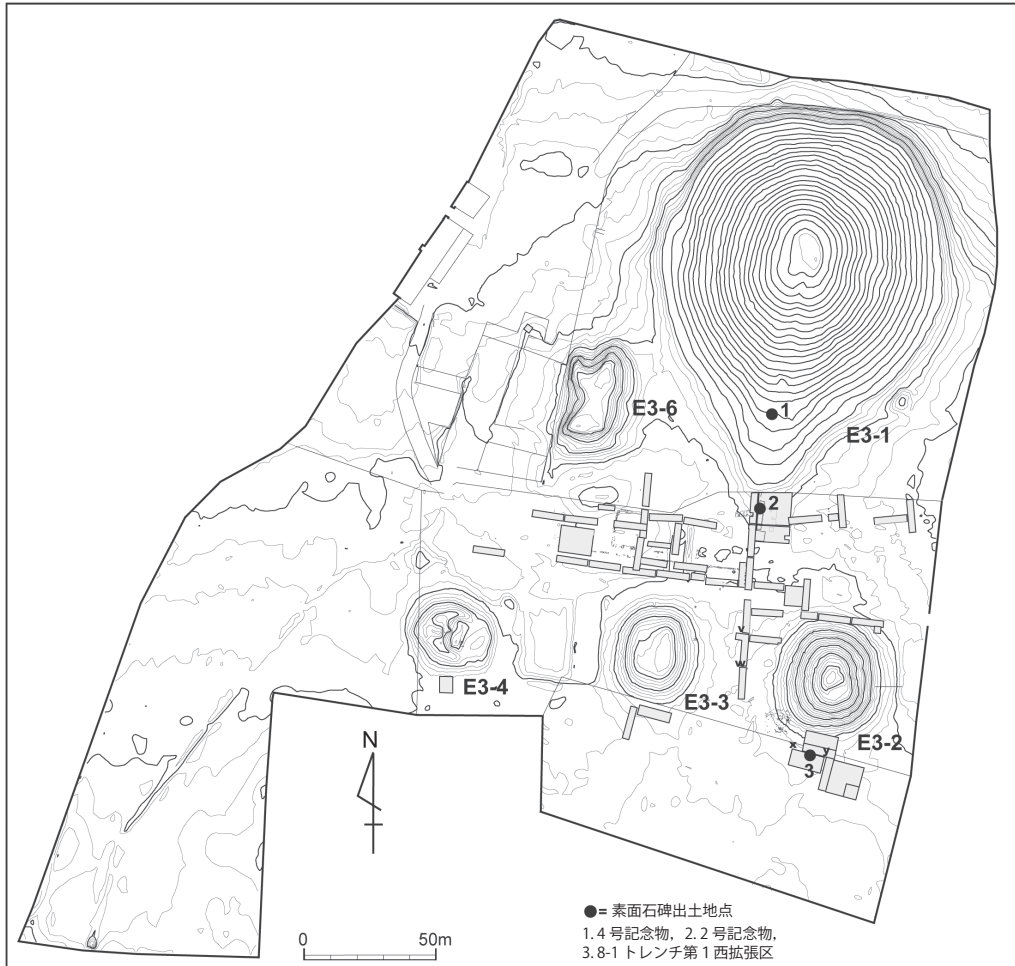


図3 エル・トラビチェ地区発掘区と素面祭壇

#### c. 8-1トレンチ第1西拡張区

E3-2建造物南側に設けた8-1トレンチ第1西拡張区から素面石碑1基と素面祭壇2基が出土した（図3、写真1 b、伊藤 2022）。イロパング火山灰（TBJ）層よりも下、石が詰められた土坑で上記石彫3基が出土した。この遺構の出土状況を考慮すると、まず小礫を含む土の床面に素面石碑を南西—北東方向に横たえた。そして、石碑南東端に接して祭壇（東祭壇）を



配置した。その後床面を新たにつくるために、この石碑と祭壇を小礫や土で埋めた。その後、石碑と祭壇石を掘り返して、土坑をつくった。その土坑に、石を満たし、その上に平らな面を下にして祭壇石（西祭壇）を配置し、逆さにした土器数点と共に埋めた。埋めた後に再び床面をつくった。その後に、祭壇石と石碑の一部を再び掘り返し、そこに石と様式化されたジャガー頭部石彫の破片を入れて埋めた。素面石碑は北東部分にメタテのような凹みがあり研磨されている。法量は270×70×90cmである。時期は先古典期後期と考えられる。

## (2) カサ・ブランカ地区

### a. 15、16号記念物

15、16号記念物はともに C3-10建造物の東にあった盗掘坑から隣り合って出土している（図2、Anderson, 1978）。横位で出土した15号記念物は殆ど整形された痕跡がなく表面は不規則面が残っている石彫と報告される。完全に発掘されていないために、法量は不明である。

16号記念物は完全には発掘されていないために、発掘された部分について報告されている。みえている面は平らで、一つの端はやや丸くされ、角は曲面である。法量は、150×77cmとされる。

### b. 17、20号記念物

17号記念物は、5号（C3-6）建造物（F.13、古典期中期：紀元後400～650年）の上面から出土している（図4）。粗く整形された三角柱状の素面石彫である。1つの面は整形されたような擦れた部分がある。3面とも凹んでいる。端部は敲打されている。法量は150×35×24cmである。報告者は幅が広い方が下となって、立っていた可能性を考えている（Anderson, 1978）。

20号記念物は、5号（C3-6）建造物南側の基線上の表土から見つかった。法量は107×37×46cmである。断面は五角形で、各面は不規則面を持っている。2面は大体平らで、もう2面は膨らんでおり、もう1面は深く波打っている。膨らんだ面と平らな面は隣り合っており、その間に波打った面がある。上下面は凹んでいる。直立していたとされる（Anderson, 1978）。

### c. 5号建造物（C3-6）南側にある階段前出土素面石碑

5号建造物（5c）の南正面で素面祭壇とともに素面石碑1基が出土した（写真2 a、

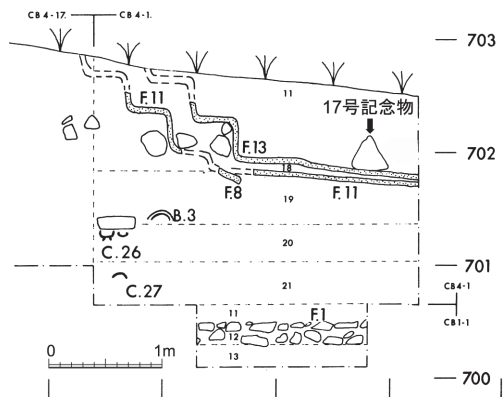


図4 カサ・ブランカ地区17号記念物  
(Sharer, 1978: fig. 22を改変)

Ichikawa, 2007; Ichikawa, et al., 2009; 伊藤 2022 : 図 2、4 c)。時期は供物の土器などから先古典期後期とされる。断面は六角形を成し、1 側面は波状の不規則面を持っている。立位で、表土から 1.2m でている。表面には整形した痕跡が観察できる。石碑下と周辺には石が置かれ、土器が出土した。法量は 217×50cm である。また、古典期後期に 5 号建造物 (5 b) は増築されるが、素面石碑はそのまま床面上に出ていた。

### (3) チャルチュアバ遺跡出土素面石碑の特徴

チャルチュアバ遺跡出土素面石碑は殆ど原位置が不明か表土から出土している。このため、正確な時期は不明である。カサ・ブランカ地区の 1 例を除いて、立って出土した素面石碑はない。4、15、16、20 号記念物は表土若しくは盗掘坑から出土している。17 号記念物は、古典期中期の 5 号建造物の上から出土している。当該建造物はこの時期を最後に建設活動はない。このため、17 号記念物は原位置にあったのか、それとも放棄後に建造物の上に置かれたのかは不明である。チャルチュアバ遺跡における素面石碑と建造物の関係をみると、殆どが建造物の南側から出土している (図 2)。15、16 号記念物のみ、建造物の東側から出土している。しかし、盗掘坑出土のため原位置は未確認である。

カサ・ブランカ地区で立位の素面石碑が出土している。また、5 号建造物の基線上素面石碑の南側約 1.5m で、素面祭壇 1 基が出土している。このために、チャルチュアバ遺跡にも石碑-祭壇複合があることが確認できる。しかし、エル・トラピチュ地区では、素面石碑 1 基が横位で出土した。この素面石碑の東西には素面祭壇各 1 基があった。チャルチュアバ遺跡では素面石碑は立位が優勢なのか、横位が一般的なのかは確認できない。今後の課題である。

器形が分かる資料は少ないが、角柱状の素面石碑が 3 基、不定形が 1 基、ある程度形を整えた方形が 1 基ある。それ以外は、素面石碑と記述されるのみで、詳細は不明である。

## 3. メソアメリカ南東部太平洋側で出土した素面石碑

当該地方では、素面石碑はシュークにより初めて報告されている (Shook, 1950)。シュークはグアテマラ全域の踏査をもとに遺跡を説明するなかで素面石碑の記述もみられる (Shook, 1952)。イサパ遺跡の素面石碑については、太陽などの天文観測に用いられた可能性をノーマンは述べている (Norman, 1976)。ポペノエ・デ・ハッチも、タカリク・アバフ遺跡の素面石碑の用途として天文観測を考えている (Popenoe de Hatch, 2002)。その後、ボベは、メソアメリカ南東部太平洋側の素面石碑を集成した。海岸地域と高地との政体の相違を示すなかで、素面石碑が天文観測に関連する可能性を述べている (Bove, 2011)。また、ペレイラとアロヨは、グアテマラ高地に位置するナランホ遺跡で出土した素面石碑を基礎資料として、その役割・機能について考察している (Arroyo, 2010; Pereira, 2010)。ナランホ遺跡の素面石碑はその景観を

形作るために配置されたとしている。また、シュークとボベが集成した素面石碑から、グアテマラ南東部にその分布が集中し、石碑-祭壇の儀礼はナランホ遺跡に起源があり、当地は巡礼の対象となっていたと考えている。

一方、エルサルバドルでの素面石碑については、パレデスが様式化されたジャガー頭部石彫を中心に論じた博士論文においてチャルチュアパ遺跡も含めて5遺跡（チャルチュアパ、アタコ、タパルシュクツ、ナウリンゴ）で出土していることを明らかにし、様式化されたジャガー頭部石彫などとの関係が深いと論じている（Paredes, 2012）。

以上をまとめると、シュークはグアテマラ全域の遺跡踏査において素面石碑を報告している。しかし、この石碑は研究の対象とはなっていない。ノーマンとポペノエ・デ・ハッチは天文観測と関係が深いと考えている。ボベはグアテマラ高地と海岸地域の政体の相違と関連付けて論じている。アロヨとペレイラは素面石碑が景観形成のために使われたとしている。また、パレデスはジャガー頭部石彫との密接な関係があるとしている。以上の研究では、素面石碑の出土状況はあまり研究の対象となっていない。本稿では、各素面石碑の器形や立位と出土状況を再確認し、素面石碑の遺跡内における位置を検討し、各遺跡内の役割若しくはその機能を再考する。そして、その歴史的な意味を検討する。

以下では、エルサルバドルにおける素面石碑を概観する。その後、エルサルバドル西部が属するメソアメリカ南東部太平洋側地方において多くの素面石碑が出土しているイサパ、タカリク・アバフ、カミナルフユ、ナランホの各遺跡の出土状況や器形などを検討する。

### （1）エルサルバドルの素面石碑

パレデスによれば、様式化されたジャガー頭部石彫と共に出土している素面石碑がエルサルバドル西部で多いとされる（Paredes, 2012）。アタコ遺跡では、建設作業の過程で様式化されたジャガー頭部石彫3基彫刻がある石碑1基玄武岩石柱1基祭壇1基が共に出土している。後者2基の石彫は素面とされ、玄武岩石柱が素面石碑と考えられるが、37cm高の破片である。クヤンクア遺跡では、玄武岩石柱2基と様式化されたジャガー頭部石彫2基が出土している。また、ナウリンゴ遺跡（アシエンダ・ラ・グランハ）でも、様式化されたジャガー頭部石彫2基が、建造物基部で柱状玄武岩と共に出土している。しかし、出土状況は不明であり、石彫の相互関係も未確認である。また、原位置にあったかも確認されていない。一方、タパルシュクツ遺跡では、2号建造物と3号建造物の間で素面祭壇を伴った立位の素面石碑がみつまっている。この素面石碑は175cm高で角柱状である。他にも1基の素面石碑、2基の柱状玄武岩が出土している。

エルサルバドルでは西部で出土例が多い。パレデスが指摘するように様式化されたジャガー頭部石彫出土遺跡で素面石碑もみつかり、その器形は玄武岩の石柱であることが多い（Paredes, 2012）。祭壇との組み合わせで出土した素面石碑はタパルシュクツ遺跡のみである。

また、立位で出土している素面石碑は、この遺跡のみである。チャルチュアパ遺跡5号建造物の前に立って出土した素面石碑も石柱状である。エルサルバドル西部では、玄武岩角柱を選んで石碑として使われていた。しかし、チャルチュアパ遺跡4号記念物は他の角柱状の素面石碑と異なり、方形に整形されている。

## (2) イサパ遺跡の素面石碑

イサパ遺跡は、メソアメリカ南東部太平洋側地方にあり、メキシコ合衆国チアパス州にある。東偏21°の基線に従って整然と配置された150基以上の建造物があり、200基以上の石彫がみつまっている (Clark and Lee, 2013; Lowe et al., 1982; Norman, 1976; Stirling, 1943)。そのうち、石碑は89基あり、52基が素面石碑である。そのうちで、13基は直立し、6基は横になっている。また、70基については、立位が不明である。建造物と関連して素面石碑が配置される以外では、建造物に囲まれた広場、湧水点近く、川の近くなどで出土している。また、27基については整形されている。そのうちの16基で立面形が判明しており、13基が方形になっている。他には、楕円形、三角形、不規則形がある。また、素面石碑の大多数が祭壇と対応関係にある。時期は先古典期後期から古典期とされる。角柱状の素面石碑はない。

## (3) タカリク・アパフ遺跡の素面石碑

この遺跡では、グアテマラ高地から太平洋岸に至る斜面にいくつかのテラスをつくり、その上に建造物が建てられている。石彫は326基が確認されている。そのうちの140基に彫刻が施されている (図5)。また、123基は素面の石碑もしくは石彫である (Orrego Corzo, 1990; Schieber de L. and Orrego C., 2010)。東偏21°の基線を持つ中央建造物群の第2、3テラス上にある11、12号建造物は調査が集中的に実施されている。12号建造物の東側には8基の素面石碑が立ち並んでいた (図5、写真3a)。この建造物は先古典期後期から古典期前期までとされる。11号建造物では、東側中央に浮彫りが施された12号記念物が位置しその南と北に各3基の短い素面石碑が立ち並んでいた (図5、写真3b)。12号記念物の東側には当該地方では玉座と考えられる4脚付きテーブル状祭壇があった。これらの素面石碑には対応する祭壇や石彫はない。2、3、4号建造物では、素面石碑に対応する祭壇がある。一方、7号建造物と13号建造物の上では、他の石彫と共に素面石碑が出土している。これらの素面石碑には対応する祭壇石や石彫は確認されていない。エル・エスコンディテでは、水路が入り組む地点で素面の祭壇 (29号祭壇) の北側に素面石碑 (56号石碑) が立位で出土した。先古典期後期とされる (Schieber de L., 1998; Schieber de L. y Orrego C., 2001)。2号建造物の南正面、4号テラスの南基部にある18号石碑は約300km離れたテワンテペック地峡から運ばれたと推定される素面石碑である (Graham, 1977)。6号祭壇と共に出土している。10号建造物西正面で28号祭壇と共に出土した55号石碑は平らで長い石を石碑として使っている (写真4b)。また、自然面と思



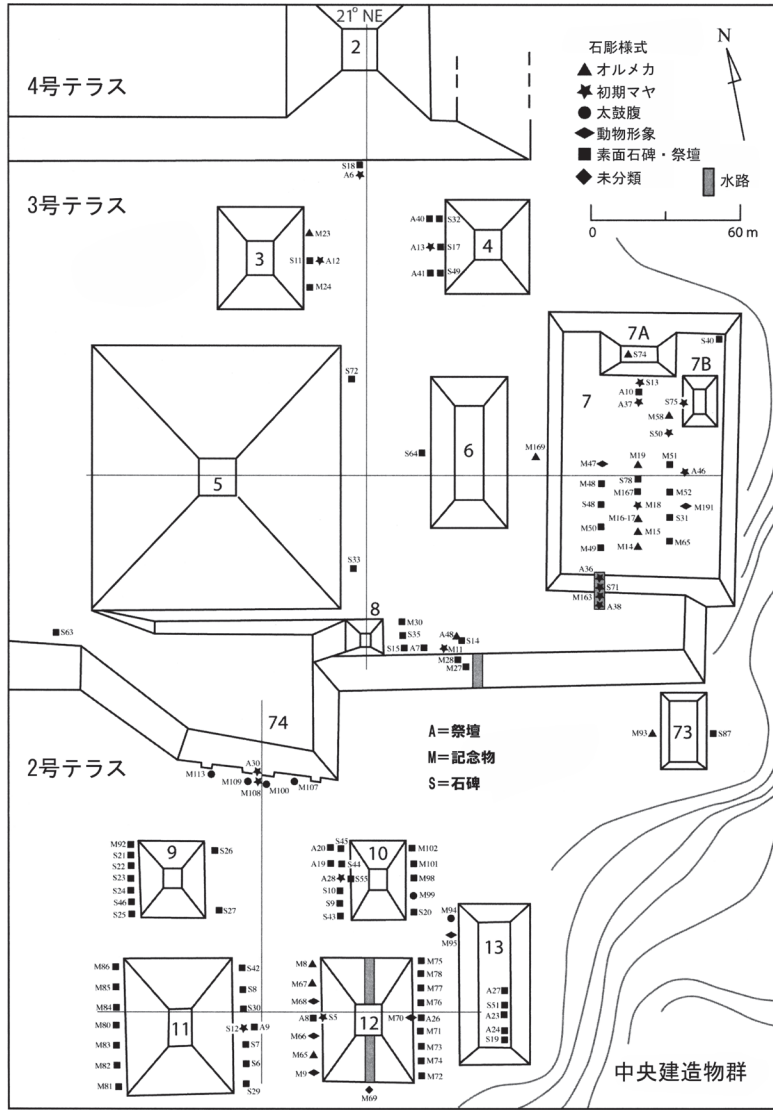


図5 タカリク・アバフ遺跡中央建造物群の石彫  
(Schieber de L. and Orrego C., 2010, fig. 8.2に加筆修正)

われる波打つ部分を持つ素面石碑も見られる（写真4c）。一方、7号建造物上には上下端が円く整形された長楕円形の素面石碑も出土している（Schieber de L. and Orrego C., 2010: fig. 8.10）。建造物に関連して出土している以外では、湧水点近くで出土している。時期は先古典期後期～古典期である。形が分かる素面石碑は19基ある。方形に整形されている素面石碑が過半数である。他には、三角形、楕円形、不定形、円柱状の素面石碑がある。素面石碑26基は整形されていることが確認できる。立位の有無がわかる19基のうちで立っているのが確認

できるのは13例ある。石碑-祭壇複合として出土している素面石碑は8基ある。

#### (4) ナランホ遺跡の素面石碑

遺跡は、グアテマラ高地にあり、カミナルフユ遺跡から北に約5km離れている。21°東偏の基線を持ち、西と北に建造物群がある (Arroyo, 2010; Neff et al., 2007)。石彫の大半 (34基のうち11基は広場以外) は、建造物に囲まれた広場にあり、3列に並んでいる。また、西側の建造物群の西側にも素面石碑が1列ある。素面石彫は湧水点近くから5基、北基壇上では2基、遺跡の南西にあるナランホ山で2基がみつまっている。ナランホ遺跡では素面石碑34基と浮彫りが施された石彫1基が確認されている。すべての石彫は先古典期中期 (ラス・チャルカス期) に属する。このうちで、少なくとも8基は立位であった。整形が施された記念物は7基以上ある。立面形が方形である記念物は11基、角柱状は8基、円柱状は2基、不規則形は7基ある。8基は器形が不明である。

このうち、2基が素面祭壇石を伴っている。立位の3号記念物は角柱状であり、素面祭壇石 (2号祭壇) を伴っている。4号記念物は立位の頂部が円い形状の素面石碑で、素面祭壇石 (1号祭壇) を伴って出土した。一方、8号記念物はよく整形された方形の石で立った状態で出土している。この記念物の前には、小さな祭壇と思われる石 (3号祭壇) があつた。この遺跡で素面石碑に使われた石材は、6角柱となる石材はナランホ遺跡から約26km離れたエスクイントラ県パリンから、その他は遺跡近くのナランホ山から運ばれたとされる (Arroyo, 2010)。

#### (5) カミナルフユ遺跡の素面石碑

ナランホ遺跡から南にあるメソアメリカ南東部太平洋側で最大級の都市遺跡である。200基以上の建造物が20世紀前半に確認されている (Kidder, et al., 1946)。ヘンダーソンのカミナルフユ出土石彫表によれば、224基の石彫が出土しており、素面石碑2基が確認されている (Henderson, 2013)。しかし、この2基を含めて、素面石碑は20基以上が出土している (Berlin, 1952; Parsons, 1986; Shook, 1950, 1951a, b, 1952)。

C-III-6建造物にあるピットから角柱状の石が出土している (Shook, 1951b)。シュークによれば、上部が壊れたたて杭石彫2基、玄武岩石柱3基が、9号石碑と副葬品と共に出土している (写真5a)。出土土器は先古典期中期 (ラス・チャルカス期) である。9号石碑と同様に立った状態で出土しており、素面石碑とも考えられる。法量は不明であるが、シュークの写真と土坑の深さ (1.4m) から1.4m前後と考えられる (Shook, s.f., 1951b)。また、9号石碑は、玄武岩角柱を整形し、その表面にオアハカのダンサンテ様式の浮彫りを施したものである。

D-III-13建造物では、アドベの材料を得るために削平された部分から素面石碑が出土している。平らで、断面は方形である。法量は185×45×14cmで、古典期前期 (アウロラ期) と

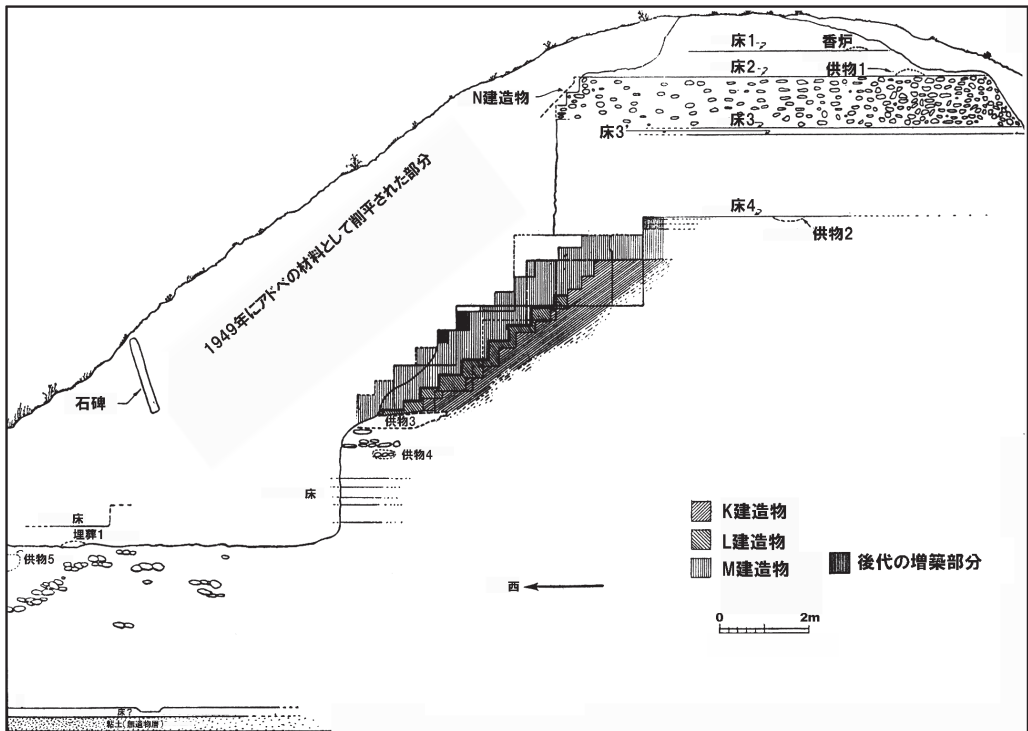


図6 カミナルフユ遺跡 D-III-13建造物出土素面石碑（Berlin, 1952: fig. 1を改変）

される（図6、写真6a、Berlin, 1952）。

C-II-4建造物（アクロポリス）南では、48号記念物が出土している。上部にはL字形に縁取りされるような部分を持ち、パーソンズによると“舵形”とされる平石である。時期・出土状況は不明である。法量は、112×25×12cmである（写真6b）。

アクロポリスの南にあるパラングナ地区では、C-II-12とC-II-14建造物に囲まれて低くなった広場の発掘で、1号墓（古典期前期：アマトレ1期）において玄武岩石柱5基素面石碑片1基素面石碑2基（27号記念物+漆喰・赤色顔料付き無番）が63号記念物と26号石碑（ともに浮彫り有）と共に出土している。また、26号石碑の下からマグサとされる玄武岩石柱が出土している（図7）。マグサとされるが、素面石碑の再利用の可能性もある。

C-III-1とC-III-9の間で、C-III-6の北にある平らな場所で、直方体に整形された素面石碑がみつがっている（写真5b、Shook, 1950）。ラス・マハダスへの道端で方形に整形された素面石碑があった（写真5c、Shook, 1950）。A-III区とB-III区の間にある崖の浸食された北側で、素面石碑2基がみつがった（写真6d、Shook, 1952）。D-III-10建造物では、上が円い方形に整形している平石が出土している。法量は、82×62×10cmである（写真6e）。

カミナルフユ遺跡では、祭壇を伴っている素面石碑はない。形は方形に整形されるか玄武岩

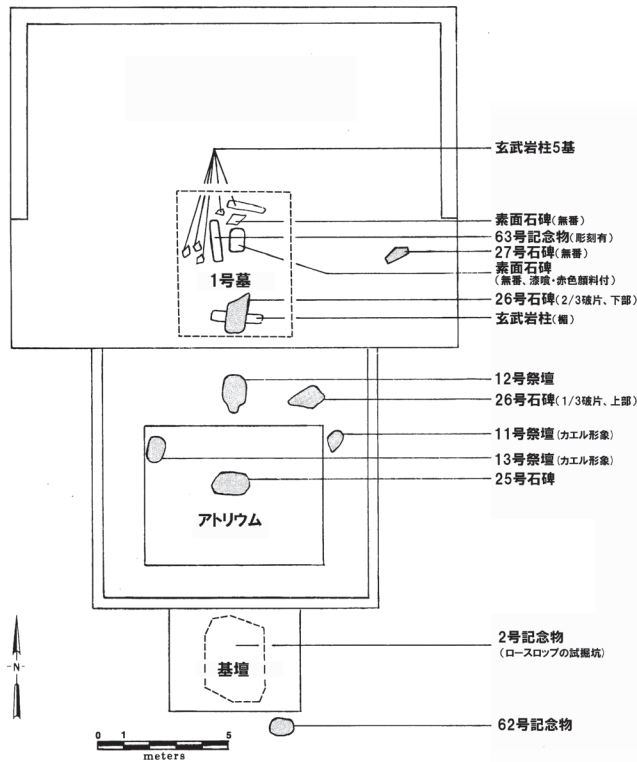


図7 カミナルフユ遺跡パランガナ地区素面石碑出土状況図  
(Parsons, 1986: fig. 5を改変)

石柱である。時期は不明な事例が多いが、先古典期中期から古典期後期と考えられる。原位置で出土しているのは、C-III-6建造物頂部の土坑のみである。D-III-13建造物では建造物正面から出土している可能性がある。また、パランガナ地区出土の素面石碑は、マグサとして使われた可能性はあるが、2次利用である可能性を報告者は考えている。

#### 4. エルサルバドル西部とメソアメリカ南東部太平洋側地方4遺跡出土素面石碑の特徴

チャルチュアパ遺跡が属するエルサルバドル西部地域で、素面石碑が出土している遺跡での出土状況を検討する。エルサルバドル西部は、メソアメリカ南東部太平洋側地方の南東端に位置する。当該地方で多くの素面石碑が出土している4遺跡で素面石碑の器形や出土状況を比較する。エルサルバドル西部とメソアメリカ南東部太平洋側の4遺跡で出土した素面石碑は、187基になる。しかし、タカリク・アバフ、イサパ遺跡などでは未発掘の区域もある。素面石碑の実数は不明である。メソアメリカ南東部太平洋側地方で多くの素面石碑を出土している



4遺跡では、イサパ遺跡が52基、タカリク・アバフ遺跡が123基<sup>3)</sup>、ナランホ遺跡が34基、カミナルフユ遺跡では20基出土している。また、エルサルバドル西部では、チャルチュアパ、アタコ、タパルシュクツ、クアंकア、ナウリングの5遺跡で15基出土している。チャルチュアパ遺跡では8基出土している。次に多いのが、タパルシュクツ遺跡で4基出土している。出土数では、チャルチュアパ遺跡はメソアメリカ南東部太平洋側の4遺跡に遠く及ばないが、エルサルバドル西部では最も多く出土している。

素面石碑の形をみると、チャルチュアパ遺跡出土素面石碑の立面形は方形、不定形がみられる（表1）<sup>4)</sup>。また、その平面形については、方形、楕円形、多角形、不規則形がある。チャルチュアパ遺跡以外のエルサルバドル西部では角柱状のみである。一方、イサパ、タカリク・アバフ遺跡では、方形が多い。ナランホ遺跡では大半が自然面の残る角柱状の素面石碑である。しかし、整形された方形の素面石碑も数基ある。カミナルフユ遺跡では、自然面の残る角柱状と整形された立面方形の素面石碑が半々ぐらいある。

素面石碑の立位と祭壇の関係をみると、エルサルバドル西部ではタパルシュクツ遺跡では素面祭壇を伴った立位の素面石碑が出土している。アタコ遺跡では、素面祭壇と素面石碑が出土している。しかし、その関係や立位は確認できない。一方、メソアメリカ南東部太平洋側地方の4遺跡のなかで、イサパ遺跡では、大多数が祭壇を伴って立位でみつまっている。タカリク・アバフ遺跡では立位が多い。また、半数弱が祭壇を持っている。ナランホ遺跡では、立位で出土した素面石碑3基のみが祭壇を持っている。また、立位の素面石碑は、第1～4石列で多い。しかし、湧水点近くでは横位が多い。カミナルフユ遺跡では祭壇を伴う素面石碑はみつっていない。立位の素面石碑は、4基ある。しかし、そのうちの3例は土坑内である。

時期をみると、素面石碑は先古典期中期から古典期後期までである。そのうちで、角柱状と方形素面石碑は先古典期中期から先古典期後期まで、方形は先古典期後期から古典期までである。また、円柱状素面石碑は先古典期中期から古典期までであるが、少ない。不定形素面石碑は先古典期中期から古典期までである。楕円形素面石碑はタカリク・アバフ遺跡のみで、先古典期後期の可能性がある。

素面石碑に関連する石彫は、祭壇が最も多く、49基ある。これらの祭壇は、殆どが素面である。また、対となっている素面石碑と祭壇に更に素面祭壇が置かれる事例もあるが、イサパ遺跡に限られる。一方、浮彫りが施された祭壇と対になる素面石碑が、イサパ（4基）、タカリク・アバフ（1基）遺跡で見られる。素面石碑1基に、素面祭壇1基が伴うのが一般的である。しかし、チャルチュアパ遺跡では、素面石碑の東西に素面石碑各1基が配置される。また、建造物の南正面に立った素面石碑の基部には様式化されたジャガー頭部小型石彫が土器と共に置かれていた。儀礼に使われたと考えられる。パレデスは、エルサルバドル西部での素面石碑と様式化されたジャガー頭部石彫との結びつきの深さを指摘している。しかし、各石彫の出土状況は未確認であり、その実態を解明する必要がある。

表1 エルサルバドル西部とメソアメリカ南東部4遺跡の素面石碑

遺跡	遺物	時期	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	立位	整形	立面	平面	共伴石彫	関連遺構等	備考	
イサバ	13号石碑	先古典期後期 ~古典期	160	89	60	○	○	F	方	9号祭壇	9号建造物	C群広場	
	15号石碑		175	128	90	○	○	D	方	11号祭壇			
	16号石碑		155	100	44	○	—	F	隅丸				
	17号石碑		—	—	—	○	○	F	方		8号建造物	C群広場	
	29号石碑		180	54	54	○	○	C	方	23号祭壇	45号建造物		
	30号石碑		—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	31号石碑		248	62	28	○	○	D	方			50号建造物	B群南側
	32号石碑		240	50	50	—	—	—	—	—	—		
	33号石碑		162	75	30	—	—	—	—	—	24号祭壇		
	34号石碑		130	76	24	○	○	B	方	25号祭壇		55号建造物	東側
	35号石碑		222	190	60	—	—	—	—	26号祭壇			
	36号石碑		135	95	40	—	—	—	—	—	27号祭壇		西側
	37号石碑		155	73	45	○	○	A	方	28号祭壇	80号建造物		東側
	38号石碑		140	75	30	—	○	—	—	—	29号祭壇	81号建造物	
	40号石碑		120	110	35	×	○	B	方	30号祭壇	30号祭壇	16号建造物	西側
	41号石碑		140	107	40	—	—	—	—	—	31号祭壇		
	42号石碑		185	70	70	×	○	—	—	—	32号祭壇	9号建造物	
	43号石碑		180	115	50	—	—	—	—	—	33号祭壇		
	44号石碑		190	73	34	—	—	—	—	—	34号祭壇		
	46号石碑		120	47	30	×	○	C	円			49号建造物	円柱状
	47号石碑		200	140	70	—	○	B	隅丸	40号祭壇		61号建造物	
	48号石碑		200	90	85	○	○	Z	楕円	41号祭壇			
	49号石碑		—	—	—	—	—	—	—	—	37号祭壇	63号建造物	川の近く
	51号石碑		200	80	72	—	—	F	円			71号建造物	円柱状
	52号石碑		236	168	70	△	○	C	方	45号祭壇	45号祭壇	25号建造物	全体が楕円形?
	53号石碑		135	150	120	—	—	Z	不規則	48号祭壇	48号祭壇	60号建造物	
	56号石碑		97	85	15	—	○	—	—	—	54号祭壇		
	57号石碑		128	74	35	—	○	—	—	—	53号石碑		137号建造物
	61号石碑		180	40	35	○	○	A	方				
	62号石碑		145	80	38	○?	—	—	—	—	56号祭壇	125a号建造物	
	63号石碑		96	54	20	○	○	A	方	22号祭壇	22号祭壇	30b号建造物	
	64号石碑		70	45	22	—	—	—	—	—	72号祭壇	127号建造物	
	65号石碑		215	50	35	—	—	—	—	—	57号祭壇	125号建造物	
	66号石碑		190	120	50	×	○	Z	不規則	58号祭壇	58号祭壇	75号建造物	
	68号石碑		75	60	30	—	—	—	—	—	73号祭壇	127号建造物	
	71号石碑		—	—	—	—	—	—	—	—	—	25号建造物	
	72号石碑		—	—	—	—	—	—	—	—	—	8号建造物	
	73号石碑		125	93	40	—	—	—	—	—	63号祭壇		
	74号石碑		200	110	65	—	○	—	—	—	64号祭壇		
	75号石碑		170	80	75	—	—	—	—	—	65号祭壇		
	76号石碑		160	150	130	—	—	—	—	—	66号祭壇		
	77号石碑		175	90	60	—	—	—	—	—	67号祭壇		
	78号石碑		145	110	79	—	○	—	—	—	68号祭壇		川の近く、G群
	79号石碑		110	130	75	×	○	—	—	—	75号祭壇		
	80号石碑		130	110	90	—	—	—	—	—	76号祭壇		
	81号石碑		155	132	110	—	—	—	—	—	—		
	82号石碑		130	80	50	—	—	—	—	—	77号祭壇		
83号石碑	125	75	35	×	—	—	—	—	13号祭壇	9号建造物			
84号石碑	85	50	25	—	○	—	—	—	—	92号建造物			
85号石碑	83	44	34	—	○	—	—	—	74号祭壇		126号建造物		
86号石碑	140	65	25	—	○	—	—	—	—				
87号石碑	100	70	40	—	○	—	—	—	71号祭壇				
			115.5	73.5	30.5	—	—	—	—	—	詳細不詳		

遺跡	遺物	時期	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	立位	整形	立面	平面	共伴石彫	関連遺構等	備考
ナランホ	1号記念物	先古典期中期	252	50	28	○	—	Z	方		第1石列	中央に穴
	2号記念物		191	72	30	○	—	A	方			
	3号記念物		160	46	28	○	—	A	多角	2号祭壇		石柱
	4号記念物		176	123	35	○	—	C	方	1号祭壇		
	6号記念物		147	94	16	—	—	—	—			
	7号記念物	先古典期中期	188	126	50	○	—	B	方		第1石列	上部欠損？
	8号記念物		252	81	30	○	○	E	方	3号祭壇		円柱状
	9号記念物		119	52	41	○	○	B	円			
	10号記念物		178	40	37	—	—	—	—			
	11号記念物		70	56	22	—	—	—	—			
	16号記念物		71	54	47	○	○	A	円		北基壇	基壇上
	17号記念物	先古典期中期	167	82	42	—	○	A	方		第4石列	
	18号記念物		80	30	18	—	—	—	—			
	19号記念物		250	52	32	—	—	A	多角		湧水点近く	石柱
	21号記念物		86	54	21	—	—	—	—			
	21号記念物	先古典期中期	96	38	24	×	—	A	多角		北基壇	石列中央、石柱
	22号記念物		350	170	100	—	—	Z	不規則		第2石列	Eかもしれない
	23号記念物		66	35	38	—	—	A	多角		第3石列	石柱
	24号記念物		432	52	38	—	—	A	多角			石柱
	25号記念物		115	25	31	—	—	—	—			
	28号記念物	先古典期中期	260	130	80	×	—	Z	不規則		第2石列	
	29号記念物		320	200	142	—	—	Z	不規則			
	30号記念物		118	32	28	×	—	A	多角		第3石列	石柱
	32号記念物		75	32	45	×	—	Z	楕円			
	33号記念物		161	110	50	×	—	Z	—		湧水点近く	
	34号記念物		145	80	20	×	—	Z	—			
	35号記念物		115	115	25	×	—	Z	—			
	36号記念物		124	100	24	×	—	Z	—		ナランホ山	
	37号記念物		49	58	30	—	—	—	—			
	41号記念物	先古典期中期	147	156	17	—	○	A	方		第4石列	
42号記念物	237		195	19	—	○	A	方		D？		
43号記念物	187		146	32	—	○	A	方		D？		
44号記念物	308		188	124	—	—	—	—				
玄武岩石柱2基	—		—	—	—	—	—	A	多角	不明		住宅地内に所在
玄武岩石柱1基		—	—	—	—	—	—	—		ナランホ山頂部		
カミナル フユ	24号石碑		185	45	14	—	—	E	方		D-III-13号基壇	
	27号石碑	古典期後期	80	62	20	—	—	—	5角		バラングナ	石柱状、アマトレ2期
	48号記念物		43	25	12	—	—	B	楕円		アクロボリス	C-II-4南
	素面石碑1基		59	62	10	—	—	C	半楕円		D-III-10	
	玄武岩石柱5基	先古典期後・末期？	—	—	—	—	—	—	—		バラングナ	1号墓（古典期前期：アマトレ1期）
	素面石碑2基		—	—	—	—	—	—	—			
	玄武岩石柱3基、素面杭状石1基	先古典期中・後期	—	—	—	○	○	A	方	9号石碑他	C-III-6建造物	方形土坑
	素面石碑2基		—	—	—	○	×	Z	—			A-III, B-III 地区の谷
	素面石碑2基		—	—	—	—	○	A	方			C-III-1, C-III-9の間
	素面石碑1基		94	54	15	—	○	A	方			ラス・マハダス道端
タカリク・ アバフ	6号石碑		150	70	25	—	—	—	—		11号建造物	東正面
	7号石碑		178	88	30	—	—	—	—			
	8号石碑		192	93	53	—	—	—	—			
	11号石碑		165	190	62	—	—	—	—	12号祭壇	3号建造物	東正面
	14号石碑		208	131	78	—	—	—	—	48号祭壇	3号テラス	南端
	15号石碑		200	170	34	—	—	—	—	7号祭壇	8号建造物	東正面
	17号石碑		410	140	105	—	○	—	—	13号祭壇	4号建造物西正面	
	18号石碑		402	120	65	○	○	D	方	6号祭壇	4号テラスの前	
	19号石碑		137	58	24	—	—	—	—		13号建造物	建造物上

遺跡	遺物	時期	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	立位	整形	立面	平面	共伴石彫	関連遺構等	備考
タカリク・アバフ	21号石碑		82	85	50	—	—	—	—		9号建造物	西正面
	22号石碑		195	138	60	—	—	—	—			
	23号石碑		210	145	40	—	—	—	—			
	24号石碑		180	90	47	—	—	—	—			
	25号石碑		185	125	28	—	—	—	—			
	26号石碑		75	75	30	—	—	—	—			
	27号石碑		—	—	—	—	—	—	—			
	29号石碑		165	57	46	—	—	—	—		11号建造物	東正面
	30号石碑		195	60	40	—	—	—	—			
	31号石碑		195	127	40	—	—	I	—		7号建造物	建造物上
	32号石碑		120	120	41	—	—	—	—	40号祭壇	4号建造物	西正面
	33号石碑		245	120	50	—	—	—	—		5号建造物	東正面
	35号石碑		158	110	82	—	—	—	—		8号建造物	東正面
	40号石碑		—	—	—	—	—	—	—		7号建造物	北東角
	42号石碑		—	—	—	—	—	—	—		11号建造物	東正面
	46号石碑		155	105	35	—	—	—	—		9号建造物	西正面
	48号石碑		206	102	44	—	—	I	—		7号建造物	建造物上
	49号石碑		188	131	38	—	—	—	—	41号祭壇	4号建造物	西正面
	51号石碑		108	60	26	—	—	—	—		13号建造物	建造物上
	55号石碑		—	—	—	×	×	Z	—	28号祭壇	10号建造物	西正面中央
	56号石碑	先古典期後期	—	—	—	○	○	A	方	29号祭壇	水路	エスコンディテ地区
	63号石碑		—	—	—	—	—	—	—		3号テラス	南端
	64号石碑		—	—	—	—	—	—	—		6号建造物	西正面
	72号石碑		—	—	—	—	—	—	—		5号建造物	東正面
	78号石碑		—	—	—	—	—	F	—		7号建造物	建造物上
	87号石碑		—	—	—	—	—	—	—		73号建造物	東正面
	27号記念物		175	129	52	—	—	—	—		3号テラス	南端
	28号記念物		218	112	122	—	—	—	—			
	30号記念物		—	—	—	—	—	—	—		8号記念物	東正面
	48号記念物		107	80	84	—	—	—	—		7号建造物	建造物上
	49号記念物		126	120	70	—	—	—	—			
	50号記念物		65	55	30	—	—	—	—			
51号記念物		115	55	40	—	—	Z	—				
52号記念物		107	101	27	—	—	Z	—				
65号記念物		—	—	—	—	—	Z	—				
71-78号記念物		—	—	—	○	—	Z	—		12号建造物	東正面	
80-86号記念物		—	—	—	—	—	—	—		11号建造物	西正面	
92号記念物		—	—	—	—	—	—	—		9号記念物	西正面	
167号記念物		—	—	—	—	—	Z	—		7号記念物	建造物上	
チャルチュアバ	2号記念物	先古典期後期	110	75	24	×	△	—	—		E3-1建造物	南正面、祭壇
	4号記念物		180	69	48	×	△	A	楕円			南正面
	15号記念物		—	—	—	×	—	—	—		C3-10建造物	東側
	16号記念物		150	77	—	×	—	—	—			
	17号記念物		150	35	24	×	△	F	三角		C3-6建造物	南側
	20号記念物		107	37	46	—	—	—	5角			
	素面石碑 1基	先古典期後期	217	54	35	○	○	A	6角	祭壇		
素面石碑 1基	先古典期後期	270	90	70	×	○	Z	不規則	祭壇 2基			
アタコ	玄武岩柱	先古典期後期?	37	—	—	—	—	—	多角		—	Columnar basalt
タバルシュク	素面石碑 1基	先古典期	175	—	—	○	—	A	多角		3号建造物	北西側、素面祭壇共伴
	素面石碑 1基	先古典期?	—	—	—	—	—	—	—		2号建造物	北西側
クヤンクア	玄武岩柱 2基											Columnar basalt
ナウリンゴ	玄武岩柱 1基											ジャガー頭部出土
	玄武岩柱 1基											ジャガー頭部出土

整形：△=痕跡有、共伴石彫：太字=彫刻有の祭壇、立面：A=長方形、B=角が円くなる長方形、C=弧を描く頂部+長方形、D=頂部が斜め+長方形、E=とがった頂部+長方形、F=弧を描く頂部+下に広がる側部、G=段となる上部+長方形、I=小判形/長楕円形、Z=不定形 ※斜体=可能性がある。



一方、関連する石碑や石彫がなく建造物との関連が考えられる素面石碑は、86基ある。そのうちで、タカリク・アバフ遺跡では、天文観測のために7号建造物に関連してつくられた施設の一部と考えている (Popenoe de Hatch, 2002; Popenoe de Hatch, et al., 2011)。また、建造物の側面基部近くに素面石碑を並べている。56号石碑は、ニマ川西岸近くで水路網のなかで29号祭壇を伴って出土している。また、ナランホ遺跡では湧水点近くから5基出土している。イサバ遺跡では、湧水点の近くや川の近くに祭壇と共に置かれる素面石碑が11基ある。これらは水に関する儀礼と関連すると考えられる。他の17基は関連する遺構や遺物が不明である。

## 5. チャルチュアパ遺跡出土素面祭壇とメソアメリカ南東部太平洋側

チャルチュアパ遺跡では、素面石碑8基が出土している。先古典期後期から古典期まで使われている。すべての素面石碑は建造物と関連している。また、祭壇を伴っている素面石碑は2基あり、先古典期後期と考えられる。これらの素面石碑を、エルサルバドル西部そしてメソアメリカ南東部太平洋側で多くの素面石碑が出土している4遺跡と比較し、その意味を検討したい。

カサ・ブランカ地区5号建造物南正面の階段前で出土した素面石碑は素面祭壇と石碑-祭壇複合を成している。また、先古典期後期に放棄された建造物を増築した古典期後期の建造物でも、階段前で立位のままであった。石碑-祭壇複合の事例は、エルサルバドル西部ではタパルクシュクツ遺跡1例しか確認されていないが、南東部太平洋側では多くの事例がある。建造物の前という限定を無くすと、エルサルバドル西部以外では更に石碑-祭壇複合の事例は多くなる。川や湧水点にみられる。チャルチュアパ遺跡では、建造物に関係が深く、石碑-祭壇複合となる。

E3-1建造物から出土した素面石碑（4号記念物）は、儀礼的に破壊もしくは殺された石彫とともに出土している（伊藤 2016, 2017）。この素面石碑は、建造物正面の頂部に至る通路・階段の上にある。こうした事例は、エルサルバドル西部にも、南東部太平洋側にも類例はない。また、祭壇（2号記念物）を伴っていた可能性はあるが、確認できない。

E3-2建造物の南側で出土した素面祭壇2基と共に出土した素面石碑は、後代の床を造成する際に埋納されている。しかし、後代の新しい床面を造成する過程において、床毎に素面石碑の一部を露出させては儀礼をおこなった。素面石碑を横位に置き床下に埋納若しくは埋めるという行為はエルサルバドル西部でもメソアメリカ南東部太平洋側の4遺跡でもない。チャルチュアパ遺跡が唯一である。

## 6. おわりに

チャルチュアパ遺跡における素面石碑の使用は、遅くとも先古典期後期に始まる。古典期後期にも使われた素面石碑もある。しかし、古典期後期に新たに建立された素面石碑はない。チャルチュアパ遺跡では、素面石碑は先古典期後期の特徴といえる。また、エル・トラピチェ地区では、先古典期後期に建設活動の停止があり、素面石碑は使われなくなった可能性がある。しかし、カサ・ブランカ地区では、5号建造物前の立位の素面石碑は古典期後期に新しい床面をつくり5号建造物を増築したにも関わらず、立ったままの状態を保ち続けた。素面石碑は、先古典期と同じく建造物正面の階段前にあり、使われ続けた可能性が高い。先古典期後期の石碑-祭壇信仰を古典期後期まで守ったと考えられる。また、E3-2建造物の南側で出土した横位の素面石碑は素面祭壇2基を伴っていた。地下界に対しての儀礼と考えた（伊藤 2022）。しかし、祭壇と石碑があることから、石碑-祭壇複合であった。また、繰り返し石碑の一部を掘り返し儀礼をおこなっていることから、先古典期前期のチアパス州海岸部のパソ・デ・ラ・アマダ遺跡からみられる祖先祭祀（Lesure, 2021）を先古典期後期のチャルチュアパ遺跡に適合させた事例とも考えられる。

素面石碑には、単純に自然石を利用したものもあるが、その原材の供給源を考えることは必要である。ナランホ遺跡では近くの山だけでなく、数十キロ離れた鉱脈からとってこられたとされている。また、タカリク・アバフ遺跡では、数百キロ離れた地域から持ってこられた石材も報告されている<sup>5)</sup>。一方、従来石碑と報告されている事例についても、特に横位で出土している素面石碑については機能・役割を含めて、今後更に分析する必要がある。また、本稿ではエルサルバドル西部と素面石碑が多数出土したメソアメリカ南東部太平洋側の4遺跡に限って考察した。今後は、メソアメリカ南東部太平洋側全域、そして更に範囲を広げて、メソアメリカ全域を対象として、素面石碑の事例を集めて分析することが重要である。

謝辞：この研究の経費は、科学研究費補助（課題番号：17K18525、20H05131、22H04928）の一部が使われました。また、素面石碑に関する E. M. Shook が収集したグアテマラの資料については、Tomas Barrientos 氏にお世話になった。この場を借りてお礼申し上げます。

## 注

- 1) 整形以外に、浮彫りなどの意味のある装飾を持たない石碑を素面石碑とする。また、同様に装飾のない石は素面記念物とする。
- 2) タスマル地区では、B1-1建造物の南70mに高さは不明であるが、80×50cmの素面石彫がある。この石彫1基についても詳細は不明であるため、本稿では扱わない。
- 3) このなかでタカリク・アバフ遺跡は素面石彫全体で123基としている。石碑、祭壇、その他の素面石彫が含まれるため、注意が必要である。

- 4) 形の分類は、石碑が立っている場合には立面形は以前の分類（伊藤 2004）に従う。立位の石碑でない場合には、縦・横・厚は一番長い辺を縦 2 番目に長い辺を横一番短い辺を厚と考える。
- 5) 27号記念物も他所から運び込まれた石材を使ったとされる。しかし、それ以外は在地の石材を使ったとされる（Schieber de L. and Orrego C., 2010: 177）。

### 参考文献

- Anderson, Dana  
1978 “Monuments.” In *The Prehistory of Chalchuapa, El Salvador* 1, edited by R.J. Sharer, pp. 155–180.
- Arroyo, Bárbara  
2010 *Entre Cerros, Cafetales y Urbanismo en el Valle de Guatemala: Proyecto de Rescate Naranja. Publicación Especial* 47, Academia de Geografía e Historia de Guatemala, Guatemala.
- Berlin, Heinrich.  
1952 “Excavaciones en Kaminaljuyú: Montículo D-III-13.” *Antropología e Historia de Guatemala* 4(1), pp. 3–18.
- Bove, Frederick J.  
2011 “The People with No Name: Some Observations about the Plain Stelae of Pacific Guatemala, El Salvador, and Chiapas with Respect to Issues of Ethnicity and Rulership.” In *The Southern Maya in the Late Preclassic: The Rise and Fall of an Early Mesoamerican Civilization*, edited by Michael Love and Jonathan Kaplan, pp. 77–114.
- Clark, John and Thomas A Lee  
2013 *Minor Excavations in Lower Izapa. Papers of the New World Archaeological Foundation* 75, Brigham Young University, Provo.
- Demarest, Arthur Andrew  
1986 *The Archaeology of Santa Leticia and Rise of Maya Civilization. Publication* 52, Middle American Research Institute, the Tulane University, New Orleans.
- Graham, John A.  
1977 “Discoveries at Abaj Takalik, Guatemala.” *Archaeology* 30(3): 196–197.
- Henderson, Lucia Ross  
2013 *Bodies Politic, Bodies in Stone: Imagery of the Human and the Divine in the Sculpture of Late Preclassic Kaminaljuyú, Guatemala*. Doctoral Dissertation, Department of Art and Art History, University of Texas at Austin, Austin.
- Ichikawa, Akira  
2007 *Informe Final Proyecto de Reparación de Drenaje alrededor de la Estructura-5*. Departamento de Arqueología, CONCULTURA, San Salvador.
- Ichikawa, Akira, Shione Shibata y Masakage Murano  
2009 “El Preclásico Tardío en Chalchuapa: Resultados de las investigaciones de la Estructura 5 en el Parque Arqueológico Casa Blanca.” En *XXII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, editado por J.P. Laporte, B. Arroyo y H. Mejía, pp. 455–460.
- Ito, Nobuyuki (ed.)  
2021 *Informe Final del “Proyecto Arqueológico de El Trapiche, Chalchuapa (Etapa: 2015–2020)”*. Ministerio de Cultura de El Salvador, San Salvador.
- 伊藤伸幸  
2004 「南メソアメリカ海岸地帯出土石碑の形」『名古屋大学文学部研究論集』50(149): 21–56.  
2016 「様式化したジャガー頭部」石彫について(1)『名古屋大学文学部研究論集』62(185): 101–123.  
2017 「様式化したジャガー頭部」石彫について(2)―メソアメリカ南東部太平洋側における意味を考える―『名古屋大学文学部研究論集』63(188): 47–72.

- 2022 「メソアメリカ南東部太平洋側の素面の祭壇石彫」『名古屋大学人文学研究論集』5：291-326.
- Kidder, Alfred Vincent, Jesse D. Jennings, Edwin M. Shook  
1946 *Excavations at Kaminaljuyu, Guatemala. Publication 561*, Carnegie Institution of Washington, Washington, D.C.
- Lesure, Richard G.  
2021 *Paso de la Amada: An Early Mesoamerican Ceremonial Center. Monumenta Archaeologica 45*, Cotsen Institute of Archaeology Press, Los Angeles.
- Lowe, Gareth W., Thomas Lee Jr., and Eduardo Martinez Espinosa  
1982 *Izapa: An Introduction to the Ruins and Monuments. Papers of the New World Archaeological Foundation 31*, New World Archaeological Foundation, Provo.
- Neff, Hector, Bárbara Arroyo, Ileana Bradford, Karen Pereira, Margarita Cossich, Carl Lipo, Kristen Nari Safi y Bret Plaskey  
2007 “Geofísica y los monumentos de Naranjo.” En *XX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 2006*, editado por J. P. Laporte, B. Arroyo y H. Mejía, pp. 843-847.
- Norman, V. Garth  
1976 *Izapa Sculpture. Papers of the New World Archaeological Foundation 30*, Brigham Young University, Provo.
- Orrego Corzo, Miguel  
1990 *Reporte 1. Investigaciones Arqueológicas en Abaj Takalik, El Asintal, Retalhuleu 1988*. Proyecto Nacional Abaj Takalik, Ministerio de Cultura y Deportes, Dirección General del Patrimonio Cultural y Natural/IDAEH, Guatemala.
- Paredes Umaña, Federico A.  
2012 *Local Symbols and Regional Dynamics: The Jaguar Head Core Zone in Southeastern Mesoamerica during the Late Preclassic*. Doctoral Dissertation, Department of Anthropology, University of Pennsylvania, Philadelphia.
- Parsons, Lee Allen  
1986 *The Origins of Maya Art: Monumental Stone Sculpture of Kaminaljuyu, Guatemala, and the Southern Pacific Coast*. Studies in Pre-Columbian Art and Archaeology 28, Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington, D.C.
- Pereira, Karen  
2010 “No todo está escrito en piedra: El Preclásico Medio y los monumentos de piedra en Mesoamérica.” En *XXIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 2009*, editado por B. Arroyo, A. Linares y L. Paiz, pp. 679-691.
- Popenoe de Hatch, Marion  
2002 “Evidencia de un observatorio astronómico en Abaj Takalik.” En *XV Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 2001*, editado por J. P. Laporte, H. Escobedo y B. Arroyo, pp. 437-458.
- Popenoe de Hatch, Marion, Christa Schieber de Lavarreda, and Miguel Orrego Corzo  
2011 “Late Preclassic Developments at Takalik Abaj.” In *The Southern Maya in the Late Preclassic: The Rise and Fall of an Early Mesoamerican Civilization*, edited by Michael Love and Jonathan Kaplan, pp. 203-236, University Press of Colorado, Boulder.
- Sharer, Robert J. (ed.)  
1978 *The Prehistory of Chalchuapa, El Salvador 1-3*. University of Pennsylvania Press, Philadelphia.
- Sharer, Robert J. and Loa P. Traxler  
2016 “The Origins of Maya State: Problems and Prospects.” In *The Origins of Maya States*, edited by Loa P. Traxler and Robert J. Sharer, pp. 1-31.
- Schieber de Lavarreda, Christa  
1998 “Exploraciones hacia el oeste del parque arqueológico Abaj Takalik: El Escondite.” En *XI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, 1997*, editado por J.P. Laporte y H. Escobedo, pp. 339-357.



- Schieber de Lavarreda, Christa y/and Miguel Orrego Corzo
- 2001 *Los Senderos Milenarios de Abaj Takalik*. Ministerio de Cultura y Deportes, Dirección General del Patrimonio Cultural y Natural y Proyecto Nacional Abaj Takalik, Guatemala.
- 2010 “Preclassic Olmec and Maya Monuments and Architecture at Takalik Abaj.” In *The Place of Stone Monuments: Context, Use, and Meaning in Mesoamerica’s Preclassic Tradition*, edited by Julia Guernsey, John E. Clark, and Barbara Arroyo, pp. 177–205.
- 2013 “Celebraciones del solsticio de invierno en Tak’alik Ab’aj: El ritual en el Altar 46 “Piecitos”.” En *XXVI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, 2012, editado por B. Arroyo y L. Méndez Salinas, pp. 919–930.
- Shook, Edwin M.
- s.f. Archivo Edwin M. Shook, ficha de sitio No. 4601; foto No.1617–6, 4601–1, 4602–4, 4702–2, 4891. Archivo de Documentación Sociocultural, Centro de Investigaciones Arqueológicas y Antropológicas, Universidad del Valle de Guatemala
- 1950 Archivo Edwin M. Shook, ficha No. 1616, 1617, 1618, 4702, 4891. Archivo de Documentación Sociocultural, Centro de Investigaciones Arqueológicas y Antropológicas, Universidad del Valle de Guatemala
- 1951a Archivo Edwin M. Shook, ficha No. 4602. Archivo de Documentación Sociocultural, Centro de Investigaciones Arqueológicas y Antropológicas, Universidad del Valle de Guatemala
- 1951b “Guatemala.” *Year Book, Carnegie Institution of Washington* 50, pp. 240–241.
- 1952 “Lugares arqueológicos del altiplano meridional central de Guatemala.” *Antropología e Historia de Guatemala* 4 (2): 3–40.
- Stirling, Matthew W.
- 1939 “Discovering the New World’s Oldest Dated Work of Man.” *The National Geographic Magazine* 76: 183–218.
- 1940 *An Initial Series from Tres Zapotes, Vera Cruz, Mexico*. National Geographic Society, Technical Papers, Mexican Archaeology Series 1. Washington.
- 1943 *Stone Monuments of Southern Mexico*. Bureau of American Ethnology, Bulletin 138, Smithsonian Institution, Washington, D.C.

キーワード：素面石碑、チャルチュアバ、先古典期、エルサルバドル西武、南東部太平洋側

**Resumen**

## Estelas lisas en Chalchuapa

Nobuyuki Ito

En Chalchuapa se encuentran 7 estelas lisas. En el área de El Trapiche, se encontró una estela lisa acostada con dos altares lisos. En el área de Casa Blanca, se localizó una estela lisa erguida con un altar liso al frente sur a las gradas de la Estructura 5. En el Occidente de El Salvador, solo estaba erguida una estela lisa con altar liso en Tapalshucut.

Se analizan 187 estelas lisas que se encuentran en el Occidente de El Salvador y cuatro sitios arqueológicos en la Costa Sur de Mesoamérica, como Izapa, Tak'alik Ab'aj, Naranjo y Kaminaljuyu, que produjeron una cantidad grande de estelas lisas.

Entre Preclásico Medio y Clásico Tardío, se encuentran varias formas de estela, como columna poligonal y redonda, cuadrada, ovalada, y indefinida. La escultura acompañada a la estela lisa, en la mayoría, es altar. También se encuentran varias estelas lisas relacionadas a una estructura en Tak'alik Ab'aj. En Izapa y Tak'alik Ab'aj hay la estela erguida con altar, como complejo estela-altar, mientras en Naranjo solo tres estelas lisas erguidas con altares lisos. En Kaminaljuyu no se encuentra ningún complejo estela-altar. Cerca del nacimiento de agua y del río, se localizan varias estelas lisas, a veces con altar, mientras en Chalchuapa no se encuentra ninguna, ni en el Occidente de El Salvador.

En Chalchuapa, durante Preclásico Tardío se ha erguido estela lisa con altar liso como otros sitios en la Costa Sur de Mesoamérica. Sin embargo, no se encuentra ninguna estela lisa acostada con dos altares lisos en esta misma región. Podría ser una costumbre local.

Palabra clave: Estela Lisa, Chalchuapa, Preclásico, Occidente de El Salvador, Costa Sur



a

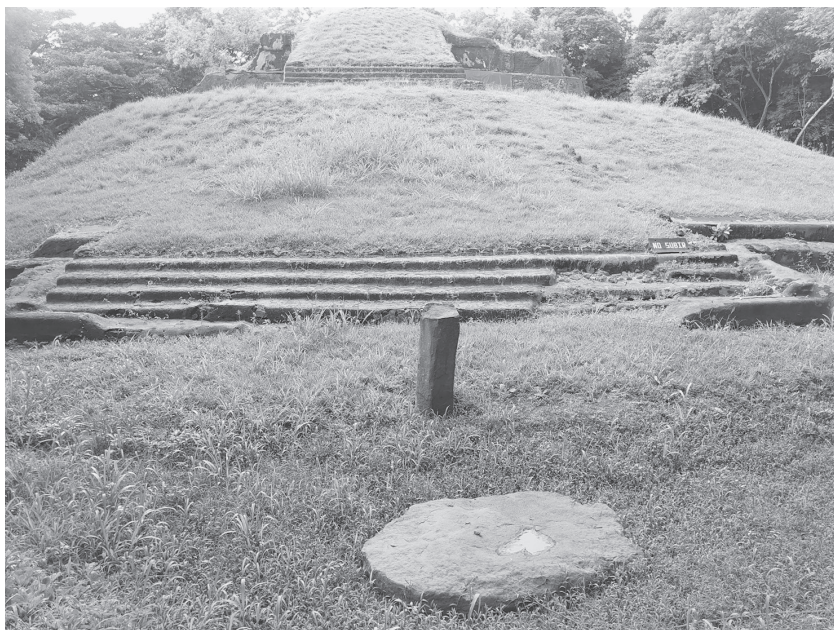


b

写真1 チャルチュアバ遺跡エル・トラピチェ地区出土素面石碑

a. 4号記念物、b. エル・トラピチェ地区8-1トレンチ1号西拡張区出土素面石碑





a



b

写真2 チャルチュアパ遺跡出土素面石碑

- a. カサ・ブランカ地区5号建造物(C3-6)南正面から出土した素面石碑と素面祭壇、
- b. タスマル地区B1-1建造物南側にある素面石碑



a



b

写真3 タカリク・アバフ遺跡の素面石碑

a. 12号建造物東側の素面石碑、b. 11号建造物西側の素面石碑





a



b



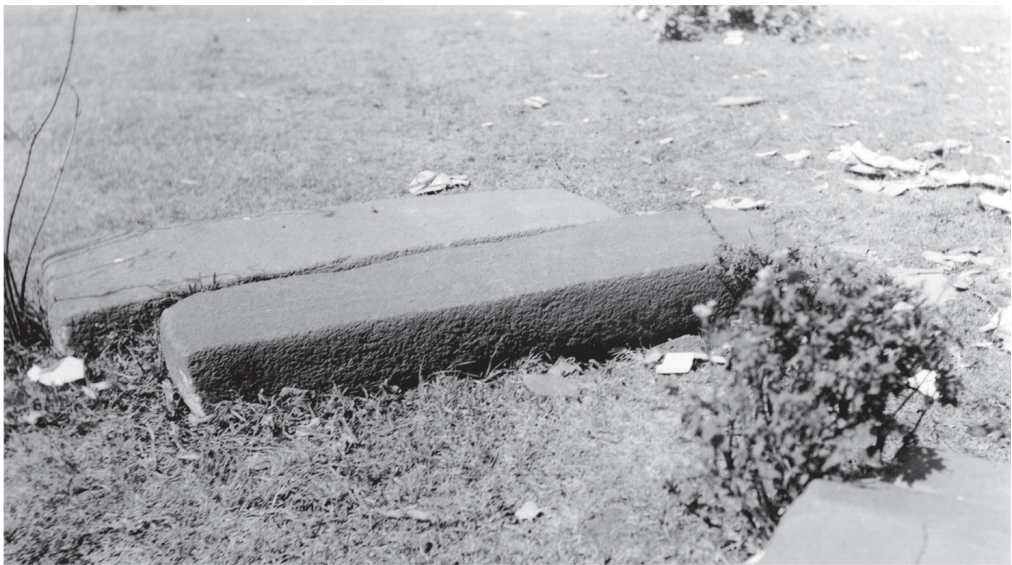
c

写真4 タカリク・アバフ遺跡のさまざまな素面石碑

a. 18号石碑と素面祭壇（6号祭壇）、b. 55号石碑と28号祭壇、c. 側面に波打った部分を持つ素面石碑



a



b

写真5 カミナルフユ遺跡の素面石碑(1)

a. C-III-6 建造物出土素面石碑、b. 直方形に整形された素面石碑  
(a, b. Shook, s.f.: foto. 1617-6, 4702-2 を改変)





a

b



c

d

e

写真6 カミナルフユ遺跡出土素面石碑 (2)

a. 24号石碑、b. 48号石碑、c. ラス・マハダス出土素面石碑、d. A-III区とB-III区の間の谷出土素面石碑、  
e. D-III-10建造物出土素面石碑 (a, c, d. Shook, s.f.: foto. 4601-1, 4602-4, 4891を改変)